



第1回名寄市議会臨時会において所信表明を行う加藤市長

# 市長就任のごあいさつ

## 明るく元気なまちへ

### ◆力強い産業づくり◆

任期満了に伴う名寄市長選挙において合併後、二代目となる市長に就任した加藤市長が4月23日、初登壇しました。市庁舎前で市民や職員の出迎えを受け皆さんと一緒に「明るく元気なまちづくりをしたい。」と就任の決意を述べました。

市長選挙におきまして、多くの皆さまの温かいご支援をいただき、市政を担わせていただくことになりました。市長という責任の重さに、身が引き締まる思いであります。

名寄市は、少子・高齢化と過疎化が同時進行し、収入が減少し続ける極めて厳しい状況の中、世界同時不況による景気や雇用など、先行き不透明な状況が拍車をかけ、かつてない変革期を迎えております。

このような時だからこそ、10年先、20年先を見据えた夢を語ることでできる元気な名寄市を

つくるため、さらに、力強い産業づくりと雇用の創造を推進するために、誠心誠意取り組んでまいります。

私にとりまして、市政運営は初めてではありますが、これまでのまちづくりへの市民の皆さまの思いをしつかり受け止め、検証を行い、公平公正に進め、自ら先頭に立ち新たな決意と情熱をもって取り組む覚悟でございます。

市政運営につきましては、昨年の政権交代で、地方自治体は大きな転換期を迎えており、地方分権の担い手として自立できる行政基盤の強化と自己責任の下で、自



#### 略歴

昭和45年11月、名寄市生まれ。  
小樽商科大学商学部卒業後、平成5年大手保険会社に入社。平成10年同社退社後、(有)ケイティパオニアに入社。平成18年(株)名寄給食センター他ケイティパオニアグループ各社代表取締役就任。

己決定できる地域主権のまちづくりが必要です。

名寄市の台所は、市民の皆さまからの多種多様なニーズに全て応えることができるほど豊かではなく、常に事業選択と財源の確保が必要となります。行政の徹底した簡素・効率化を図り、市民の皆さまと情報を共有した上で、協働のまちづくりに知恵と汗をともに出し、自主性と自立性の高い行政運営に取り組んでまいります。

私は、6つの基本施策を掲げ、市政運営にあたります。

6つの基本施策

民間会社「名寄市」的発想で行政運営を推進します。  
基幹産業（農業）の推進に全力を注ぎます。

名寄市立総合病院のさらなる充実に努めます。  
名寄市の財産を活かしたまちづくりを進めます。  
自衛隊名寄駐屯地を堅持します。  
市民福祉の充実を図ります。

これからの4年間、皆さまからの信頼と期待をしっかりと受け止め施策の実現に向け邁進いたします。そして、名寄市が北海道の中核都市としての役割を果たし、発展することを目指してまいります。皆さまの一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。市長就任のご挨拶いたします。

名寄市長

加藤 剛士

副市長・教育長を紹介します

副市長（名寄庁舎担当）

中尾 裕二



平成20年6月から、名寄庁舎担当副市長として総務部、市民部、健康福祉部、教育部を担当しています。

略歴

昭和23年10月、名寄市生まれ。  
神奈川大学法学部を卒業後、昭和48年に名寄市役所に就職。  
福祉事務所、総務部、市立総合病院、市立大学事務局長を経て、平成19年から総務部長の後、平成20年6月副市長に就任。

副市長（風連庁舎担当）

久保 和幸



5月11日市議会臨時会において、風連庁舎担当副市長に選任されました。経済部、建設水道部を担当するほか旧風連町区域に置かれた合併特別区長を務めます。

略歴

昭和29年1月、旧風連町生まれ。  
北海道拓殖短大農業経済学科卒業後、昭和49年旧風連町役場に就職。  
税務課、社会課、耕地課、総務課を経て、風連町・名寄市合併準備室長。平成18年4月から市立大学事務局教務課長兼学生課長。

教育長

藤原 忠幸



5月11日市議会臨時会において、教育委員として選任された藤原忠氏が教育委員会での互選により教育長に再任されました。

略歴

昭和16年3月、紋別市生まれ。  
東洋大学卒業後、昭和39年に北海道紋別高等学校教諭となる。  
昭和44年から昭和50年まで名寄高等学校教諭。平成11年札幌西高等学校校長の後、平成12年から旧名寄市の教育長に就任。平成18年から名寄市の教育長に選任。

（敬称略）